

2020年3月期 第2四半期 決算説明会資料

2019年10月29日@ステーションコンファレンス東京
7741.T [ADR: HOCPY US] HOYA株式会社

[メモ付ver.]
説明会におけるコメントや質疑応答を参考情報として記載しております。説明内容をすべて書き起こしたものではありませんのでご了承ください。

1. 決算概要[代表執行役CFO 廣岡 亮]

2. 情報・通信事業概況

3. ライフケア事業概況

4. 総括

5. 質疑応答

業績概況

(億円)	Q2 FY18	Q2 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益	1,420	1,541	+121	+9%
税引前四半期利益	384	442	+58	+15%
四半期利益	312	350	+38	+12%
cf. 通常の営業活動 からの利益	382	452	+70	+18%

為替影響が逆風のなか、過去最高の売上収益・利益を達成

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

3

- 売上収益は 1,541億円、前年同期比121億円(+9%)の増収
- 税引前四半期利益は442億円、前年同期比58億円(+15%)の増益
- 四半期利益は 350億円で、前年同期比38億円の(+12%)の増益

為替換算の影響

(億円)	前期レート 換算(A)	当期レート 換算(B)	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益	1,599	1,541	-57	+178	+13%
税引前四半期利益	450	442	-8	+66	+17%
四半期利益	357	350	-7	+45	+14%

主要通貨	(A)Q2 FY18 レート	(B)Q2 FY19 レート	変動率
US\$	¥111.88	¥107.67	+3.8%(円高)
EURO	¥130.54	¥118.95	+8.9%(円高)
BAHT	¥3.40	¥3.51	-3.2%(円安)

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

4

- 今四半期はユーロ、ドルともに円高となり、その影響を受けている
- 仮に前年同期と為替レートが同じであったとすると、売上収益は実質ベースで178億円（+13%）の増収
- 税引前四半期利益に対する為替換算の影響は-8億円であり、実質の増益は66億円(+17%)

特殊要因等について

包括利益計算書

(億円)	Q2 FY18	Q2 FY19	YoY
収益合計	1,438	1,553	+115
費用合計	1,054	1,111	+57
減価償却費	63	84	+21
税引前四半期利益	384	442	+58

新リース会計基準の適用により減価償却費が増加。

- 今回はほとんど特殊な要因はなかった
- 消費増税など、一時的な要因による売上増に関しては後述

ライフケア事業 業績概況

(億円)	Q2 FY18	Q2 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	919	1,004	+85	+9%
税引前四半期利益	170	206	+37	+22%
cf.通常の営業活動 からの利益	187	217	+30	+16%
cf.通常の営業活動 からの利益率	20.3%	21.6%	+1.3pt	

*外部売上の数値

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

6

- ライフケア事業の売上収益は1,004億円、前年同期比85億円の増収
- セグメント利益（税引前利益）は206億円、前年同期比37億円の増益となった

ライフケア事業 業績概況(為替影響除き)

Q2 FY19業績の前期レート換算との比較

(億円)	前期レート 換算	当期レート 換算	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益*	1,047	1,004	-43	+128	+14%
税引前四半期利益	210	206	-3	+40	+24%
cf.通常の営業活動 からの利益	220	217	-3	+33	+18%

*外部売上の数値

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

7

- ライフケア事業においては、主にユーロ安により-43億円の影響があり、実質的な増収額は128億円(+14%)であった
- セグメント利益（税引前利益）は、為替換算の影響を除くと、実質的に40億円の増益

情報・通信事業 業績概況

(億円)	Q2 FY18	Q2 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	490	524	+35	+7%
税引前四半期利益	217	243	+27	+12%
cf.通常の営業活動 からの利益	209	243	+33	+16%
cf.通常の営業活動 からの利益率	42.7%	46.2%	+3.5pt	

*外部売上の数値

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

8

- 情報・通信事業の売上収益は524億円、前年同期比35億円の増収
- セグメント利益（税引前利益）は243億円、前年同期から27億円の増益となった

情報・通信事業 業績概況(為替影響除き)

Q2 FY19業績の前期レート換算との比較

(億円)	前期レート 換算	当期レート 換算	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益*	538	524	-14	+48	+10%
税引前四半期利益	248	243	-5	+31	+14%
cf.通常の営業活動 からの利益	247	243	-5	+38	+18%

*外部売上の数値

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

9

- 情報・通信事業の売上収益に対する為替換算の影響は-14億円であり、これを加味すると実質的には48億円の増収であった
- セグメント利益（税引前利益）は、為替換算の影響を除くと、実質的には31億円の増益

サブセグメント別業績

ヘルスケア関連製品 売上収益 メガネレンズ / コンタクトレンズ

(億円)	Q2 FY18	Q2 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	706	761	+54	+8%

為替換算影響除き

(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	791	761	+84	+12%

*外部売上の数値

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

10

- ヘルスケア関連製品（メガネレンズ、コンタクトレンズ）の売上収益は761億円、前年同期比で54億円（+8%）の増収
- メガネレンズにおいて円高の影響を受けており、為替換算の影響を除いた実質的な増収額は84億円（+12%）
- 為替影響除きではメガネレンズは4%の伸び。中国と欧州が好調だった。日本も増税前の駆け込み需要あり
- コンタクトレンズは想定していた以上に9月の駆け込み需要があり30%の伸び。これを差し引くと、8%程度の成長だった。実態としては、下期の売上が前倒しになったと考えている
- 参考までに決算補足資料P.17に地域別の成長率を記載しており、今回の増税の影響で日本の成長率が14%（Q1は2.6%）と高い伸びを示している

サブセグメント別業績

メディカル関連 内視鏡 / 眼内レンズ

(億円)	Q2 FY18	Q2 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	213	244	+31	+15%

為替換算影響除き

(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	256	244	+44	+21%

*外部売上の数値

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

11

- メディカル関連製品（内視鏡、眼内レンズ等）の売上収益は244億円、前年同期比で31億円（+15%）の増収
- 為替換算の影響を除いた実質的には44億円（+21%）の伸びとなった
- 眼内レンズは買収効果を除いたLike-for-Likeでは17%の増収、内視鏡についても欧州とアジアで高い伸びを示し、17%の増収

サブセグメント別業績

エレクトロニクス関連 マスク&ブランクス / HDD基板

(億円)	Q2 FY18	Q2 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	381	430	+49	+13%

為替換算影響除き

(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	441	430	+60	+16%

*外部売上の数値

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

12

- エレクトロニクス関連製品（半導体、液晶関連製品及びHDD用ガラス基板）の売上収益は430億円、前年同期比で49億円（+13%）の増収
- 為替換算の影響を除いた実質的な増収額は60億円（+16%）
- 引き続きEUV用のブランクスがけん引
- HDD基板については、2.5"が引き続き落ちているが、データセンター向け3.5"の需要が増加し、9%の成長

サブセグメント別業績

映像関連製品 光学レンズほか				
(億円)	Q2 FY18	Q2 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	109	94	-15	-14%

為替換算影響除き				
(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	97	94	-12	-11%

*外部売上の数値

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

13

- 映像関連製品の売上収益は94億円、前年同期比で15億円の減収（-14%）
- 為替換算の影響を除いた実質ベースでは12億円の減収（-11%）
- なお、撤退した事業を除いたLike-for-Likeベースでは5%の減収
- カメラ市場の減少が続いているが、当該事業のウェイトが相対的に小さくなったため、全体への影響は限定的

貸借対照表

(億円)	Q1 FY19	Q2 FY19	QoQ
非流動資産	2,764	2,798	+34
流動資産	4,868	5,169	+301
資本	6,113	6,370	+256
非流動負債	334	314	-20
流動負債	1,185	1,284	+99
合計	7,632	7,968	+335

現金及び現金同等物が246億円増加したことにより、流動資産は増加

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

14

- 貸借対照表においては、特に大きな動きがなかった
- 現金が246億円増加し、流動資産が大きくなっている

キャッシュフロー計算書

(億円)	Q2 FY18	Q2 FY19	YoY
営業活動によるCF	401	447	+46
減価償却費	63	84	+21
投資活動によるCF	-196	-111	+85
財務活動によるCF	3	-75	-78
リース負債の返済による支出	-	-18	-18
現金及び現金同等物 期末残高	2,523	2,984	+461

新リース会計基準の適用により、減価償却費（営業CF）とリース負債の返済（財務CF）の間で入り繰りが発生した。

➤ キャッシュフローにおいても、自社株買いが想定よりも少なかったため、現金が増えている

自社株買いについて

本年10月末終了の自社株買いの取得状況や手元資金の状況等に鑑み、追加の自社株買いを決議

自社株買い①

取得上限：600億円
期間：2019/5/8～2019/10/28
取得株式総額：241億円（消却予定）

自社株買い②

取得上限：500億円
期間：2019/10/30～2020/4/23

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

16

- 本年5月より実施してきた自社株買いは、取得上限600億円に対し、241億円（309万株）の取得で終了、取得した株式は全て消却する
- 買い付けは証券会社と条件を決めたうえで一任契約で実施するが、想定した以上に株価が上昇したため、消化率は40%だった。
- 本日のプレスリリースで公表のとおり、新たに500億円を取得上限とする自社株買いを決議
- 前回同様、証券会社と条件を決めたうえで一任契約で実施していくので、株価に関わらず機械的に買うというものではない
- どのような条件を設定しても上限を設ける限り、消化率は株価次第になるので、消化率が余りにも低くならないように設定したい

1. 決算概要

2. 情報・通信事業概況 [執行役COO/CTO 池田 英一郎]

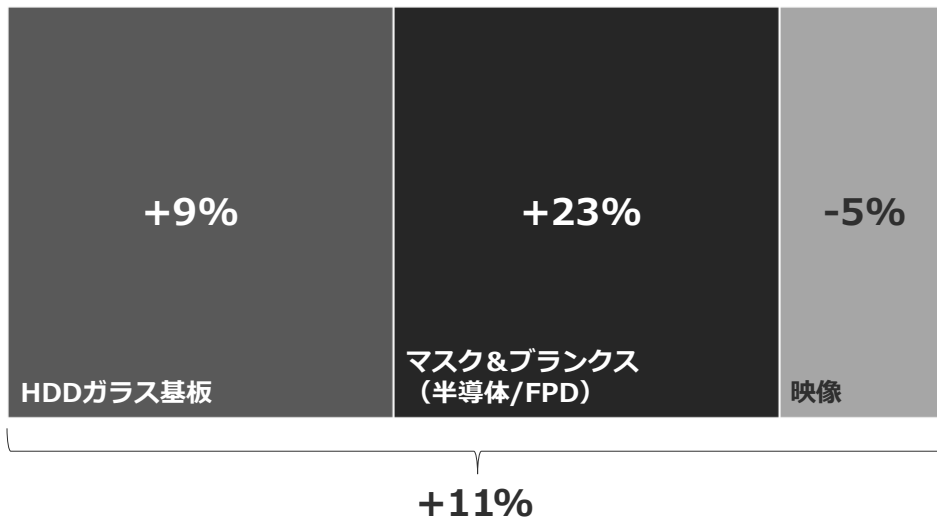
3. ライフケア事業概況

4. 総括

5. 質疑応答

情報・通信事業概況

売上増減率（Like-for-Like）

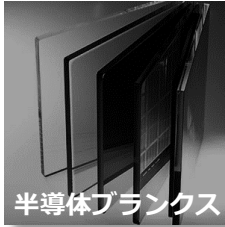


© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

18

- 情報・通信事業は、為替換算影響ならびに非継続の製品（レンズユニット）を加味すると、11%の増収だった
- 利益率についても前期から3.5pt UPの46.2%となった
- 製品別の売上増減率は、HDDガラス基板が+9%、マスク&ブランク스가+23%、映像は-5%だった

製品別概況



半導体ブランク

足元

引き続き7nmオプティカルが好調。EUV用途もモメンタムを維持し、前期比90%強の成長

今後

半導体メーカーのEUV投資意欲向上、露光機の稼働数増加を背景にEUV用途の成長を期待



FPD/LSI マスク

足元

中国・韓国市場におけるOLED需要を取り込み成長

今後

今後さらなる成長が予測される中国市場におけるビジネス拡大を図っていく

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

19

【半導体ブランク】

- オプティカル（DUV）のハイエンドが前期比で25%増、EUVは90%を超える成長を達成
- EUVの7nmの量産が開始されたというのが、業界で共通した認識となっている
- 露光機についても、本年25-30台の計画となっており、これに伴うEUVの成長が期待できるだろう
- 日韓輸出管理強化に伴い、7～8月は韓国の顧客が在庫水準を上げる動きがあった。今後、短期的には在庫を消費する動きとなろう

【FPD/LSIマスク】

- 日本と台湾はマイナス成長だったものの、中国で80%増と大きな伸びを示し、3～4%の成長
- 中国において、G6・G8のOLEDマスクにおける集中的な営業活動が奏功した
- 中国の売上比率は今や4割を超えた。今後も同市場の高精細OLEDのマスク需要を取り込んでいきたい

製品別概況

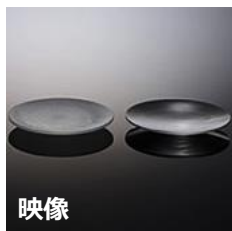


足元

データセンター需要が回復基調で全体で増収
3.5"売上比率は37%に

今後

既存製品のリブレースにより、引き続き3.5"
基板の成長を図っていく



足元

カメラ市場の縮小により、引き続き減収となっ
た

今後

継続的に新規用途/販売チャネルの開拓を行う

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

20

【HDDガラス基板】

- 2.5"が引き続き減収となった一方で、データセンター向け3.5"の売上が約2倍となり、全体は9%成長と、当社のシナリオどおりに進捗
- 2.5"はゲームが新機種からSSD搭載が決まっており、引き続き20%以上のマイナスとなるだろう
- データセンター投資も足元で動き初めて来た。また当社はデータセンター業界全体からすればまだ規模が小さく、既存のアルミ基板の置き換えによって成長しており、市場全体と比べても安定的に成長できるだろう
- また、当社の顧客が16TBのドライブを競合他社に先行してローンチし（今期後半から出荷）、市場シェアを拡大させる可能性がある
- 残りの2社についても、ガラス基板を使ってもらおうべく、サンプルを供給し共同で開発活動している

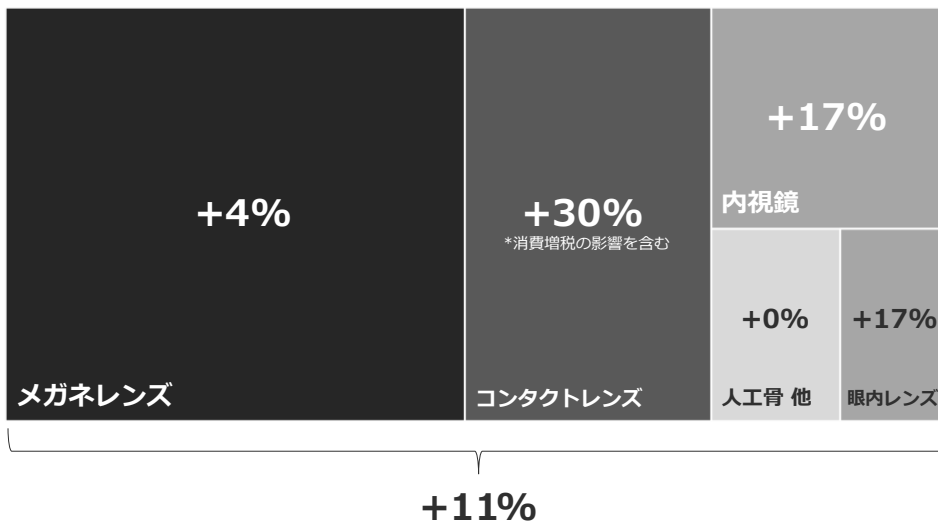
【映像】

- 一眼向けのレンズが想定よりも減少が大きい
- 監視カメラと車載カメラ用途で補うことで、マイナス5%にとどまっている
- 新しい用途の開拓が今後も重要

1. 決算概要
2. 情報・通信事業概況
- 3. ライフケア事業概況 [代表執行役CEO 鈴木 洋]**
4. 総括
5. 質疑応答

ライフケア事業概況

売上増減率（Like-for-Like）



© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

22

➤ 製品ごとの売上増減率については、メガネレンズが+4%、コンタクトレンズが+30%、内視鏡が+17%、眼内レンズが+17%であった

製品別概況



メガネレンズ

足元

欧州やアジアにおける成長がけん引し、全体で増収

今後

11月にベトナム第2工場操業開始
新規顧客開拓を続ける



コンタクトレンズ

足元

増税前の駆け込み需要により大幅増収
期末店舗数 315店（買収込み）

今後

駆け込み需要からの反動減を予想
下期に出店を加速

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

23

【メガネレンズ】

- 欧州がアジアが好調だったが、米州がブラジルの内部要因もあり不調であった
- 競合が欧州の有力チェーンを買収することで合意形成しており、当該チェーンに供給している当社にとってマイナス。今後1年程度は、これによるマイナスを新しい顧客の開拓などで補っていくことになるため成長率は少し鈍化する可能性がある。ただ、顧客ミックスの変化により収益性の向上は目指していく

【コンタクトレンズ】

- 消費増税前の駆け込み需要があり、30%の大幅増収となった。駆け込み需要は40億円程度だった
- 実態としては、売上の先食いのため、下期は売上成長が鈍化したように見えるだろう
- 他方、新規出店は続けていくので、実質的な成長は続くだろう

製品別概況



足元

中国市場での売上が回復し、二桁成長を達成

今後

買収した会社とのシナジー効果を検討
新製品を順次投入



足元

新製品効果等により、売上比率の高い欧州や、
アジアが大幅増収をけん引

今後

引き続き新製品を順次投入

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

24

【眼内レンズ】

- 中国の代理店での余剰在庫問題が一段落し、二桁増収に
- 日本、欧州ともに二桁成長だった
- 2大競合の組織体制が整い、メディカル製品への取り組みに本腰となっており、今後競争環境は激化していくだろう

【内視鏡】

- ヨーロッパにおいて、一過性ではあるがロシアでの売上が好調だった。同国では、何年か1回に大規模な買い付けを行う傾向がある
- アジアも韓国と中国を中心に堅調

1. 決算概要
2. 情報通信事業概況
3. ライフケア事業概況
- 4. 総括[代表執行役CEO 鈴木 洋]**
5. 質疑応答

【3ヶ月を振り返ってのトピック】

➤ 半導体ブランクス：

7nm先端のオプティカルの伸びが思ったよりクリティカルレイヤー数が多くて伸びている。競合との関係において、当社は先端ノードにおけるシェアが高く、かつレイヤー数が増えていることで伸びていると分析している。こうした先端オプティカルの状況はしばらく続きそう

➤ HDD基板：

2.5"の売上はゲーム機の影響などにより、想定より落ちた

➤ 総括：

輸出管理強化懸念からの韓国顧客における在庫積み上げや消費増税前の駆け込み、内視鏡のロシアでの好調など、一過性のプラスが多い四半期であった。

Q3がQ2と同様のモメンタムとなるわけではないことに留意されたい。かと言って、底が抜けたように悪くなるわけではない。

1. 決算概要
2. ライフケア事業概況
3. 情報・通信事業概況
4. 総括
- 5. 質疑応答**

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

26

■ それでは、質疑応答に移らせていただきます。 ※ご質問のある方は挙手いただき、ご質問いただく際に、会社名とお名前をお願いいたします。

■ お時間が限られておりますので、お一人様 2 問までとさせていただきます。 ご協力のほどお願い申し上げます。

■ （終了時間が近くなってまいりましたので、次の方を最後とさせていただきます。）

■ 以上をもちまして、本日の説明会を終了させていただきます。 本日はお忙しいなか、ご参加いただき、ありがとうございました。

質疑応答内容-1

Q

[HDDガラス基板]

中国においてHDDの特需があったようだが、HOYAへの影響は？

A

当社にとって大きな影響はない。それとは別に大手クラウドベンダーを最終顧客とする3.5"の売上構成が上がってきているが、ビジネスの特性上、3.5"は2.5"に比べて当社もHDDメーカーも実需と比べて在庫を多く持つ必要がある。特に新製品のローンチ時にHDDメーカーが一時的に在庫を積み上げる動きが出る。それがある短い期間で区切ってみると、特需と言えるかもしれない。

また大手クラウドベンダーの投資の考え方はそれぞれ違うので、個別に考える必要がある。

Q

[半導体ブランクス]

EUV向けブランクスの単価の今後の見込みは？

A

現状よりも欠陥の少ない高品質のものを実現し、自らスペックを作り出すことで単価を上げていきたい。また競合に先行して、次世代のスペックを開発する環境が整っていると考えている。

質疑応答内容-2

Q

[半導体用 blanks]

需要が強いが生産能力の増強は間に合うか？また増産投資による利益への影響は？

A

シンガポール工場においてEUV向けラインを新設中で、予定通り2020年度Q1中に立ち上がる予定。キャパシティは現状から倍増を見込む。
減価償却費増などで利益率は下がるが、利益額が初年度で前年を下回らないようにしたい。

Q

[HDDガラス基板]

3.5"需要への対応計画に変わりはないか？

A

ベトナムの2工場のうち1つは3.5"にほぼ転換済みで、今後も2.5"を3.5"に転換していく。ラオスの新工場の立ち上がりも予定通り（当資料最終頁を参照）で2020年度Q1中に稼働開始が可能となる。新たな顧客が増えた場合、さらに新しい工場が必要になるかもしれない。
また、3.5"は2.5"に対して面積が2倍であるためスループットが下がるという点でも生産能力を増やす必要がある。3.5"の価格は2.5"の価格の2倍ではないので生産性を上げることで同様の収益性を実現していきたい。

質疑応答内容-3

Q

[メガネレンズ]

ベトナム新工場建設による能力増強の状況は？増分をどのように埋めていくか？

A

建設は予定通り進んでいる。メガネレンズにはオーダーメイドとレディーメイドのものがあるが、ベトナム新工場では後者を製造し新興市場へ供給していくことで成長市場での足場づくりを行っていく。レディーメイド品は比較的単価が低いので短期的な業績への影響は小さいだろう。

Q

[HDDガラス基板]

3.5"の新たな顧客からの引き合いの状況は？

A

当社は10枚（20TB）のHDD以降でガラス基板を採用する必要があると考えており、HDDメーカーにサンプルを提供し、共同で開発活動を行っている。

Q

[内視鏡]

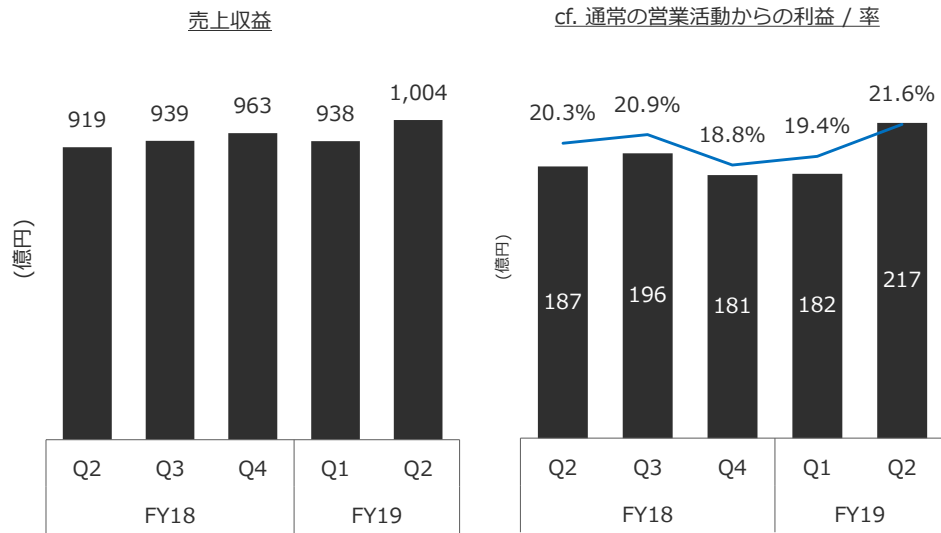
新製品上市スケジュールと今後の成長見込み

A

欧州はQ2から新製品を販売しており、下期から更に米国で認証を取得することで成長が加速すると見込んでいたが、現状認証を取得できていない。結果として現状の西欧の成長がドライバーとなって全体としても堅調な成長が続くと見込んでいる。

Appendix

ライフケア事業 QoQ推移

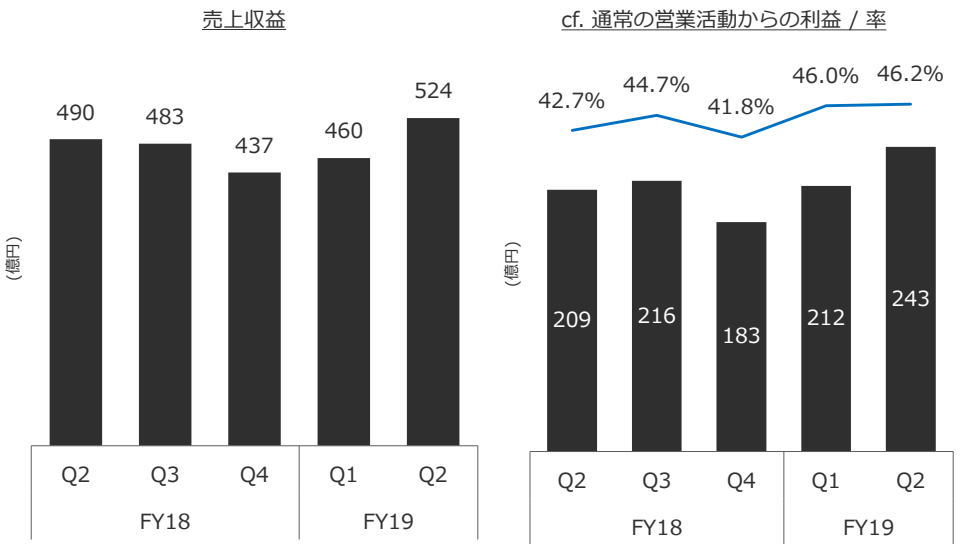


*外部売上の数値

© 2019 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

31

情報・通信事業 QoQ推移



*外部売上の数値

Topics

[HDD基板] ラオス新工場の建設状況

データセンター向けHDDの需要増に備え、HDD基板（3.5"）の新工場をラオスに建設中。当社としての同国への拠点設立は初めて。工程は順調に進捗しており、2020年4月より稼働開始予定。



[コンタクトレンズ] 空ケースリサイクル運動の状況

使い捨てコンタクトレンズのケースは、メーカー問わずポリプロピレンで作られており、リサイクルに最適。コンタクトレンズ事業（アイシティ）では2010年より空ケース回収を開始、今では様々な企業や学校の協力のもと活動中。これまでに327万トン回収、905トンのCO2削減に貢献、リサイクルで得た対価全額の786万円を日本アイバンク協会に寄付している。また本年10月24日には、東京都東大和市と協定を締結し、市立中学校や市民センターなどを拠点に回収を開始、活動範囲をさらに拡大している（写真は調印式）。



本資料の表記について

- ✓ 当社は国際会計基準（IFRS）を適用しています。
- ✓ 2019年4月～2020年3月の会計期間を2020年3月期もしくはFY19と表記しています。
- ✓ 第1四半期、第2四半期、第3四半期、第4四半期をそれぞれQ1, Q2, Q3, Q4と表記しています。
- ✓ 億円未満の金額は四捨五入しており、そのため合計値が合わない場合があります。
%は実際の金額を基に算出しています。
- ✓ Like-for-Likeとは、為替換算影響やM&A効果、その他のイレギュラーな要素を除き比較した変動率を指します。
- ✓ 通常の営業活動からの利益は、税引前利益から金融収益・費用、持分法投資損益、為替差損益及び非経常的に発生する損益等を除いて算出している参考値です。
- ✓ 本資料の財務諸表は明細を割愛しています。詳細な財務情報は決算短信もしくは決算短信補足資料をご覧ください。
<http://www.hoya.co.jp/investor/kessan.html>

免責事項

本資料は、当社の評価を行うための参考となる情報提供のみを目的としたものです。投資等の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。投資の結果等に対する責任は負いかねますのでご了承下さい。当資料に掲載されている将来に関する記述の部分は、資料作成時点の判断ですが、その内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。